
大学院生とカモメ

がーし

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

大学院生とカモメ

【Nコード】

N3835Q

【作者名】

がーし

【あらすじ】

心を癒しに来た大学院生と、カモメのお話。

ニンゲンの悩み、カモメの悩み、何が違うんだろう。

澄み切った青空が、海を青く化粧する。

風は海から香りをもらい、町中を潮の匂いで満たしていく。

海に糸を垂らし、おもりが深い碧に沈んでく。

僕は釣れない魚を待ち、竿を持ってじっと座っている。

街とは違う風の音。

僕はただその音を聞いていた。

もちろん竿は動かない。

風は少し強くなる。

僕の隣に1羽のカモメが座っていた。

カモメは不思議そうに僕を見て、こんなことを尋ねてきた。

「どうして、きみたちニンゲンは、いつも暗いかおをしてるんだい？」

「ニンゲンたちは何でもつくれるし、ほしいものもすぐに手に入るじゃないか」

「なやむことなんてないじゃないか」

僕は海を眺めながら、

「君たちにはわからないんだよ。」

「わからない？じゃあ、おしえてよ。ニンゲンはどういつことなやんでるの？」

「君に言っても仕方がないよ。」

「教えてよ。どうせ魚なんかつれないよ。おいらもここらへんで魚をさがしたけど、ぜんぜん見つからなかったもんね」

釣れないことはわかっていた。それでも僕は少しむっとした。

「いろいろあるんだよ」

「いろいろって？」

「いろいろだよ」

「ふーん」

カモメはむっとした顔で僕を見ている。

「じつはね、おいらもちよっと、なやんでるんだ」

「さっきね、おいらのともだちと、きょうそうしてたんだ」

「そいつはね、おいらよりも速く飛べるんだっていうんだ」

「だから、おいらはそいつときょうそうしたんだよ」

「さいしょは、あいつのほつが、速かったんだけど、とちゅうからおいらのほつが速くなったんだ」

「でも、あいつ、いきなり方向をかえて、みぎのほうにとんでいっ

「たんだよ」

「で、あいつはこっちがゴールだよ、っていうんだ」

「「ほら、おらのほうが、はやかっただろ」っていうんだ」

「ずるいだろ、腹がたったから、おいらはあいつのあたまを、けてやったんだ」

必死に羽を広げながら、小さな足をあげながら、まだ話し続ける。

「そしたら、あいつはおこって、どっか飛んでいつちゃったんだ」

「でも、おいらも足でつけたのは、やりすぎたかなっておもってるんだ」

「でも、やっぱりあいつがわるいから、おいらからあやまりに行くのは、いやなんだ」

「どつしようかな」

カモメはうなだれた。でも、すぐに僕の方を向いて、少し得意げな顔で、

「ね、おいら、なやんでるだろ」

「つぎは、ニンゲンのなやんでること、教えてよ」

僕はカモメの方に顔を向けたが、すぐにまた海の方に向き直して、仕方が無く話し始める。

「僕は学校に通っていてね、」

「ガツコウってなに？」

「学校は勉強するところだよ。」

「ベンキョウって楽しいことなの？」

「他の人はわからないけど、僕はあんまり楽しいとは思ってないよ。」

「へえ、ニンゲンってたいへんだね」

また僕はむっとした。相変わらず竿は動かない。風は少し弱くなった。

「で、ニンゲンはなにで、なやんでるの？」

「僕はね、学校で研究をしているんだ。研究っていうのは、わからないことを調べて、わかるようにすることなんだよ。でもね、最近、

「あつ」

カモメは空を見ていた。

「あいつめ、もどつてきたな」

「さては、さっきのことを、おいらにあやまりにきたんだな」

「ちえっ、またいばつた顔してるな」

「おいらはあつちがあやまるまで、あそんでやらないからな」

「じゃあ、そろそろ、もどるね」

「なんか、よくわからなかったけれど、なんかたのしかったよ」

「もしまた、会ったら、おはなし聞かせてね」

「じゃあね」

カモメはばさつと羽を広げて、海へと飛び出した。

びゅうつと風が吹くと、一気に空高く昇っていった。

僕は、カモメが飛んでいった空をしばらく眺めていた。
風は少し冷たくなって、空は少し赤くなり始めていた。
相変わらず竿は動かない。

完

(後書き)

僕が岩手県宮古市で釣りをしていたときに、思い浮かびました。
カモメって近くで見ると、凜々しい顔をしているんですね。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3835q/>

大学院生とカモメ

2011年1月28日12時26分発行